

# 第9回 運営推進会議 議事録

令和3年3月11日

事業所名	デイサービスセンター「笑くぼ」			
開催日時	令和3年3月11日(木)			
開催場所	書面での回答			
参加者	利用者	1名	知見を有する者	1名
	利用者家族	1名	地域包括支援センター	1名
	地域住民の代表	1名		
			事業所職員	1名
議題	1 運営状況			
	2 運営委員からの評価			

## 会 議 録

### 1 運営状況

○ 利用状況

利用定員17名。利用者人数26名(男性5名、女性21名)。

事業対象者要:1名/支援1:2名/要支援2:2名。

要介護1:3名/要介護2:8名/要介護3:4名/要介護4:6名/要介護5:0名。

○ 活動内容

A 新型コロナウイルスの感染予防(再徹底)

① マスクは出来るだけ不織布を使用して頂く

② 来所時は必ず玄関でアルコールによる手指消毒を行う

③ 洗面所でのうがいは飛沫が周囲に飛び散る為行わず、湯茶を召し上がって頂き胃に流す様にする

④ トイレ後は石鹸で手洗いをしアルコール消毒する

⑤ 使用した食器類は一定時間次亜塩素酸で消毒する

⑥ 送迎時に37.5度以上の熱が有る場合は来所をお断りする

※ 家族がいる場合は家族にお願いし、かかり付け医でのPCR検査をお願いする。独居の場合は担当ケアマネに連絡し対応をお願いし、感染の疑いがある場合はデイに持ち込まない事を前提とする。

⑦ デイに来てから発熱した場合、個室に隔離し、家族及びケアマネに連絡しお迎えに来ていただくか救急車を要請する

⑧ 濃厚接触者が居る場合は、発熱者と同室に待機して頂き、同様な対策をとって頂く

⑨ 利用者より職員や利用者の家族が感染源になる事が考えられるため、職員やご家族の行動環境などには十分に注意して頂き、同一の学校や職場から感染者が出た場合は利用者の来所を自粛して頂く

以上を職員間で数回にわたり確認しあいました。「笑くぼ」及び利用者様のご家族からは感染者はなく、「コロナ感染が怖いから…」という理由でお休みする利用者もおりませんでした。

B 避難訓練

2月18日 地震から火災が発生した事を想定した避難訓練を実施。

コロナ禍での避難所への非難は逆にリスクを負う結果になりやすい為、当事業所で非難し、ある程度収まってから自宅に帰る事とした。災害への地域との連携した対応については、自治会長様にも相談しながら進めたいと思う。

C 口腔機能向上訓練

誤嚥性肺炎の予防・歯肉炎による認知症進行の予防を目的とし、歯科医と連携して、利用者の口腔状態の評価・訓練を昨年1月から実施。訓練の結果、

舌苔の減少 70 → 50.2

舌圧向上 17.1 → 17.5

咀嚼力向上 144.9 → 157.8 (いずれも対象者の平均)

昨年以降、誤嚥性肺炎で入院された利用者はゼロ。高齢者の肺炎は命に直結する大きな問題なので、今後も継続していく。

D 地域との交流

① 「子ども110番の家」は今まで通りに実施(伊勢小学校より継続依頼有り)

② 自治会よりビオラの花を頂戴し、通行される地域の方々にも見て頂くよう、道路に面した場所に植栽

③ デイの玄関に、季節ごとに利用者が作ったり塗ったりした作品を、表から見えるように飾っている

(裏面に続く)

## 2 運営委員からの評価

(利用者)

- ・いつも楽しませて頂いて有難いです。コロナの影響で外出や外食が出来ないのが残念です。今年はデイで花などを育ててみたいと思います。

(利用者家族)

- ・利用者は高齢なのでコロナ感染の対策は十分お願いしたいと思います。個別のお願いですが、睡眠が十分にとれるように運動はしっかりお願いしたいと思います。

(知見を有する者)

- ・普段なかなか利用者さんが通所している所の活動内容を正確に知る事はありませんでしたので、とても新鮮でした。事業所の活動内容としてその事業所で頑張っている所を知る事は、今問題になっている所が分かり、情報としてとても助かりました。今コロナ禍で外に向かった活動が難しい所ですが、コロナが落ち着きましたら、地域へ開かれた事業所として頑張って下さい。利用者さんの利用日でなくても、気にして頂いております事、とても感謝しております。これからも宜しくお願いいたします。

(地域住民の代表)

- ・東日本大震災から10年がたち災害が起きた時に「何が有っても皆の命を守る」の志は常に持っています。AED・消火栓ボックス・避難場所・避難物資など十分な備えなどをお願いしたいと思います。

(地域包括支援センター)《確認事項》

1. コロナ禍で外出がなかなかできない高齢者の健康維持について、何か指導していることはあるか？また、セルフケアの維持に向けた取り組みを知りたい。
  - ・自宅での食生活をきちんと行い、デイが休みの日はリハビリのつもりで家の外に出て少しでも歩く事を指導している。
  - ・食べる事は健康に繋がるという事を説明し、その為には歯を大事にして口腔衛生を自分でも行うように指導している。
  - ・今年度は誤嚥性肺炎で入院された利用者はいなかったが、自宅での転倒で腰椎圧迫骨折を起こした利用者が増えた。機能訓練では下肢運動を重点に行なってるが、自宅に於いては寝ている事が多いという利用者があるため、転倒によるロコモティブシンドロームの怖さを説明し、寝たきりにならない為にも出来るだけ身体を動かし筋力低下を予防するように努力していく。
2. 別施設では、職員のストレスについて議題にありました。コロナ禍の中での業務について、職員のストレスケアに関する取り組みについて教えてください。
  - ・特にコロナ禍だからという事はなく、常にストレスは抱えている(職員数が足りない・職員間の人間関係・仕事の不公平さ等)。
  - ・管理者は利用者ばかりでなく職員の行動や言動に注意し、時間のある限り話を聞くようにしている。
  - ・月に1回の職員会議の場で、出来るだけ発言する機会を設け職員間の思いや誤解などを解くようにしている。
  - ・職員全員が「報連相」を徹底していれば、大方の不満は少なくなると思っているが、それが出来ておらず自分の中に仕舞い込んでいる事が多いのが原因だと考えている。業務関連の「報連相」の中には必ず不満が隠れている事が多いので、それを見逃さないようにしていきたい。

次回、第10回運営推進会議は、令和3年9月の予定